

佐 潟 通 信

佐潟水鳥・湿地センター

佐潟の近況「夏のようす」



息のあった地元のおかあさん二人

業をしていました。つぼみは市場に出荷され盆花用として多くの人が買っていきそうです。

7月上旬に咲き始めたハスの花は8月上旬に盛りを迎えました。ハスの群落は潟を埋め尽くすほどに見えますが実際に舟で漕ぎ出せば、開放水面も多いと感じます。暑さもピークになったお盆前、佐潟の風物詩となっている「ハスのつぼみ採り」が行われ、地元住民の方々は潟の舟を操りながら、見事な手さばきで作



優しい色のハスの花

自然（野鳥と植物）情報

<珍しい鳥>

6月10日 サンカノゴイ 2羽飛翔通過
(今冬も時々観察されていました。)

<初認・主な確認>

6月12日 オニバス幼葉
6月24日 コアジサシ同時飛来数 14羽
7月05日 ハス開花
8月07日 ヒシ開花
7月08日 オオタカ
7月30日 ハヤブサ(若)
8月05日 ハヤブサ2羽
8月09日 ミズアオイ開花
8月下旬 オニバス開花



佐潟では465種類の植物、このうち水辺に特徴的な植物は52種類が確認されています。ミズアオイは水田の乾田化や農薬の影響また河川改修や埋立てなどで激減し、周辺では佐潟が残された生育環境のようです。今年は上潟で5年ぶりに大群落を形成し、みごとなお花畑を見せてくれました。

佐潟の野鳥紹介「チュウサギ」(中鷺)



コウノトリ目・サギ科
英名：Intermediate Egret
学名：*Egretta intermedia*

日本には夏鳥として渡来し、平地の竹やぶや雑木林にほかのサギやウの類と一緒にコロニー(集団)をつくって繁殖しています。習性はダイサギに似ていますが、干潟で見るとはほとんどなく、ゴアーまたはグアーと鳴きます。少数が新潟市内のサギ集団繁殖地で営巣し、佐潟には、夏から秋にかけて餌を捕りに集まり、美しい姿で目を楽しませてくれます。

全長：70cm 体重：500g

見分け方のポイント

体の大きさはダイサギとコサギの間ですが、くちばしはコサギより短いです。冬はいません。

佐潟の植物紹介「ミズオトギリ」(水弟切)

池や沼、湿地などに生える高さ 30 ~ 80 cm の多年草です。茎の基部が赤紫色を帯びることが多く、葉は長さ 3 ~ 7 cm、幅 1 ~ 3cm の長楕円形です。秋には美しく紅葉します。花は淡紅色で直径 1 cm 午後になって開き、夕方しぼみます。佐潟では上潟を中心に見られますが、野鳥観察舎近くの自然生態園・園路脇でたくさん観察できます。

花期 8 ~ 9 月

分布 北海道・本州・四国・九州



オトギリソウ科ミズオトギリ属
学名：*Triadenum japonicum*



花のポイント

雄しべは 9 個で、3 個ずつ 3 つの束に分かれます。

佐潟の観察ノートから(2005年6月～2005年8月の佐潟)



ツバメの親子



ハグロトンボ



ノコギリクワガタ



ヨシゴイ



オオバンの親子

2005年7月8日(金)

早朝、Tシャツでは涼しすぎるくらい。この時期は雨が気になりますが、花の美しさが際立ちうれしいです。オオヨシキリの声もおさまってきたようで、雛たちがそろそろ巣立つのかなと感じられます。

2005年7月15日(金)

あちらこちらでハスが咲き、その上をツバメが飛び交っていました。岸边近くの湖面ではカイツブリの親子が仲良く泳いでいました。

2005年7月22日(金)

中道(漕ぎ渡り道)脇にて呆然としているゴイサギ(若)を確認、後で保護しました。手前では、中道の橋でヨシゴイを近距離で観察。何度か狩りを披露してくれました。(写真)オシドリ、カワセミも中道で確認。

2005年8月5日(金)

ハスの花が満開になりました。佐潟周辺の畑ではたばこの葉の収穫が盛んです。畑のスプリンクラーは大忙しです。

観察種は(野鳥)ヨシゴイ ゴイサギ ダイサギ チュウサギ コサギ アオサギ ハヤブサ オオバン キジバト カッコウ カワセミ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ オオヨシキリ シジュウカラ ホオジロ アオジ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス 25種 (植物/花・昆虫他)ミソハギ ヌマトラノオ ハンゲショウ ヤナギ ワスレナグサ カラスウリ ミズヒキ オヒシバ メヒシバ アメンボ コフキトンボ アブラゼミ カナブン ハエ チョウトンボ ウチワヤンマ ナナホシテントウ ジョロウグモなど。

2005年8月12日(金)

朝早くから地元漁協の方々がハスの蕾つみ作業をしていました。真夏の風物詩は、まるで人と潟が一体となっているように感じます。

2005年8月28日(日)

地元赤塚まつりは一昨年まで打ち上げ花火が行われていましたが、今年からは「佐潟万燈籠」が実施されました。潟に浮かべられた燈籠は、夜の佐潟を美しく彩っていました。(右写真)



センターからのお知らせ

親子で佐潟の植物観察と押し花しおりづくり開催

5月29日(日)佐潟の植物を通して自然の楽しみ方を体験。また、観察中に見つけた植物を使ってオリジナルの「しおり」を作成しました。さらに、身近な野草のてんぷらも味見しました。



<参加者の声> とても楽しい思い出になりました。野草の観察は、特に興味を持っている子供を除けば、すぐにつまらないと感じてしまうもの。花が咲いていることを何か別な事に、物に活かすという目を持ちながら探して、それがきれいなしおりになるなんて、素敵なプログラムでした。新潟には、こんなに自然が残っているのですから、身近な所の動植物こそ、見るべき、楽しむべき対象にしてくれる様な催しをこれからも楽しみにしています。子供よりも親の方が愉快だったかも…。初めて紙すきからしおりを作り、楽しかったです。いろいろな草花も教えてもらって良かったです。また参加したいです。天ぷらおいしかったです。



「佐潟のいきもの展」開催

子供たちのうれしいリクエストをもらい、今年も「佐潟のいきもの展」を開催し、佐潟に生息する魚や昆虫など昨年以上にいろいろないきものを展示しました。

日時 7月30日(土)～8月14日(日)午前9時～午後4時半

展示のいきもの

魚(フナ、コイ、ライギョ、ヨシノボリ、タナゴ、メダカ)

カエル、オタマジャクシ、アメリカザリガニ、カメ、エビ、ヤゴ、ミズムシ、ミズカマキリ、カブトムシ、クワガタムシ、コガネなどの昆虫



佐潟のいきもの粘土工作 日時8月6日(土)午後1時～3時



「佐潟のいきもの展」に展示している魚とカエルをモデルにしたオープン粘土工作をしました。

<参加者の声> 子供にも作りやすい題材が用意されていて楽しく製作できました。簡単だけど、フナのウロコやヒレ、カエルの手足などの細かい作業は、案外子供たちが熱中していたようです。この施設の利用方法の一つとして来る機会にもなるので、是非また企画して欲しいです。ありがとうございました。

佐潟での行事・保全活動



ハス茶つくりと潟舟体験



職場体験・釣り針除去



赤塚小学校クリーン活動



ミズアオイの生息環境
再生ボランティア活動

佐潟水鳥・湿地センター利用のご案内

【開館時間】9:00～16:30(冬期間の11月から2月の土・日は7:00から)

【休館日】月曜日(但し祝日の場合は翌日)、年末年始

佐潟についての情報、質問等ありましたら、お気軽にFAXかE-mailをください。

編集 佐潟水鳥・湿地センター

〒0-2261 新潟市赤塚5404番地1

電話 025(264)3050 / fax025(264)3051

E-mail: sakata.wlc@alpha.ocn.ne.jp

発行 新潟市市民局環境部環境対策課

〒951-8550 新潟市学校町通1番町602番地1

電話 025(228)1000(内線)2731